

府立箕面支援学校 「学校協議会」報告 （第3回）

日時・場所	平成 26 年 2 月 28 日（金） 本校 校長室		
出席者	協議会委員	所属・職名等	学校（職名・校務分掌等）
	藤江 康彦	東京大学大学院・准教授	校 長
	山田 紅美	大阪府池田子ども家庭センター・課長補佐	教 頭 2 名
	阿久根 賢一	社会福祉法人福祥福祉会・理事	事務長
	辻 優子	吹田市立わかたけ園・園長	首 席・総務部長
	本校保護者	本校 PTA 副会長	首 席 2 名
			首 席・高等部部主事
			小学部部主事
			中学部部主事
			記録者（総務部）
主な内容	学校教育自己診断結果と本校の課題について 本年度、次年度の学校経営計画について		
説明・質問・協議内容等	① 学校長挨拶 ② 会長挨拶 ③ 学校教育自己診断集計結果報告・本校の課題について ④ 本年度、次年度の学校経営計画 ⑤ 事務局からの諸連絡 〈山田委員〉 ・学校教育自己診断アンケート設問 14 番、いじめのない学校に対する意見として、否定的な意見が 0%、「わからない」が 30%という結果について、巻き込まれたことがないので「わからない」という意見になるのでは。否定的な意見が 0%というのは素晴らしい。 →いじめは起こる可能性はある。ただ、地域でいじめられた子が、支援学校に来ていじめられることがなくなり、高校生活を安心しておくことができているという事もある。人権教育にも取り組んでいる。 →いじめはなくても体罰はあってはいけない。 ・設問 28 番に関して、初任者への指導はどうしているのか。 →1 年～3 年の若手教員の研修を指導教諭中心に取り組んでいる。否定的な意見が 30%ある。相談できる教員が周りにいると、共に成長していくのではないかと。 →新規採用教員、新転任者に対して、4 月当初に研修を行っているが、研修を受ける教員に対してのケアができたらいいのではないかと意見が出ている。今年度、初任者が 4 月に退職し、昨年度は初任者が 1 年勤めて退職している。他の学校でも初任者が退職するケースがある。 新年度が始まり、初任者が戸惑ったり、怪我をしたりしないように行っている自立		

- 活動、医療的ケアなどの研修の内容が負担になっている部分もあるのではないかな。
- ・保護者が安心して通学させることができる環境を整えないといけない。

〈阿久根委員〉

- ・アンケートの結果は満足度が高いと思う。
- ・医ケアや特別食を実施していない生徒の保護者は、質問の内容がわからないと思う。対象者を絞って分析してみてもどうか。
→医ケアの子どもをもつ保護者は関心が高い。もっと意味・内容を理解してほしい。情報発信はするべきであると考えている。
- ・放課後の活動に関して、デイサービスなどの利用が増えていることから、ニーズがあまりないのでは。やらなくてもいいことはしなくてもよい。
- ・教員間の授業参観に関しては、ビデオ等を活用してみたらどうか。
→本校ではビデオを使って、授業参観を行っている。また、指導員の方に来てもらい指導をしてもらっている。昨年度は中学部のグループ、今年度は新規採用2年目の教員を対象に行った。各学部、学年で、そういう機会を増やしていくことも、子どもと向き合う時間を作ることになるのでは。そのために諸会議を減らしていきたい。

〈辻委員〉

- ・以前は、保護者からプール開放日が少ないという意見があったが、デイの利用率が上がり、否定的意見は減ったと思われる。ただ、医ケアの子どもを見てもらえるところが少なく、対応が難しい。看護師が常駐していたり、特別食の対応をしていると保護者も安心できる。
- ・指導面において、教員によって対応が違う。個々で得手不得手はあるが、研修などで伝えていくことは必要。
→若い教員が増え、研修を充実させたい。来年度に向け検討している。
→教員の資質として、教科の指導＋生活指導＋家庭支援が必要である。専門力だけでなくコミュニケーション力やファシリテーション力、カウンセリングマインド等人との関わりも重要であると考えている。
- ・防災についてどう考えているか。
→安全部と連携をとり、今年度備蓄は充実させてきた。その生徒に必要なもの1日分を学校に備蓄している。バスの中での取り組みや、避難訓練の充実に力を入れている。
→今年度、PTAから備蓄品の保管倉庫、非常用持ち出し袋などを用意していただいた。PTA会費に備蓄費用を入れる。
→避難訓練には真剣に取り組んでいる。今後、想定しないことに対する訓練も検討している。
→また、緊急時のシミュレーションを夏休みに実施している。児童生徒の生命に関することなので、教員、養護教諭、看護師で連携して行っている。

- ・メンタルな部分での復帰プログラムはあるのか。
→段階的に仕事に復帰していくようなプログラムがある。

〈保護者委員〉

- ・他の支援学校で、地震避難訓練で、保護者が生徒を迎えに行くというところまで訓練を行っているところもある。どれくらいの保護者が、数時間で迎えに来ることができるか把握することが必要だと思う。また、自身に子どもがおり、迎えに行かないといけない教員はどれくらいいるのかという把握も必要ではないか。家族でも、災害時にどう対応するのか決めておくことが必要。
→校内での教員の配置等の訓練だけで、そういうことを想定してシミュレーションした事がない。教員においても、優先するものは家族である。他の教員で最大限、できることはしないとはいけない。学校側としては、災害時にどのくらいの教員が対応できるのか把握が必要である。
→家庭と職場での対応の取り方のすり合わせをしておくという意識付け、問いかけが必要だと思う。
- ・災害時の安否確認はどう行っているのか。
→担任が携帯電話で連絡を取る方法をとっている。また、災害時（不審者情報、台風や大雪など）の緊急連絡網として、一斉メールの配信も行っている。個人情報の問題もあるが、保護者、教員には任意で入ってもらっている。
→数日前、近隣で事件が発生。その際、一斉メールを配信したが、2割の方から見たという返事があった。誰がメールを見たのかという把握はできる。文言等の検討が必要。
- ・授業アンケートの記入欄に、児童生徒名、授業担当者名の名前を書く欄があるが、誰が見るのか。
→授業力の向上の評価、育成の参考資料として使用している。集計は管理職が行い、教員に返している。
- ・例えば、低い評価をした場合に、1対1で生徒に接する、身体的な接触もあるという環境で、不安に思うこともあり、書きにくい面もある。
→直接的に担任、担当者に話をするのではない。伝わってきた情報に関連させて聞いたり、今後気をつけてほしいこととして学年に伝えたり等が考えられる。
→苦情申し入れとしてではなく、客観的に授業を評価してほしい。多少辛口の意見もあったほうがよい。
- ・各教科で、1年通してどうだったかというアンケートをとってみもよいと思う。
→日々の事に関しては、連絡帳、電話で連絡している。
- ・病休明けの教員へのフォロー、周りの教員へのフォローが必要だと思う。
→必要だと感じている。今年度、初めて教員向けのメンタルケアの研修をした。きづきがあれば早期対応しないといけない。

	〈藤江委員〉 ・ 小学部、中学部、高等部の意見がまとめられているが、学部ごとのバラつきはあるのか。 →全体的に数のバラつきはない。特化した部分は報告にあるとおり。 ・ このアンケートは非常勤の教員は回答していない。 ・ 常勤の教員は研修を受けることができるが、非常勤の教員は研修を受ける機会がない。非常勤の教員も含めての研修の充実が必要。 ・ 教員の授業見学、参観について。教員という仕事上、無理に作らないと出てこない時間である。研修に出る時間を確保していく。 ・ 教員の回答、肯定の段階を見ると60%のものが結構ある。60%のものに着目することで、短期的に解決できる問題もあると思う。 ・ 「わからない」の回答が多いのは、対象者が限定されるためで、項目ごとに対象者を絞る方法もある。 ・ 授業力、生徒指導、医ケアなど、個人個人の教員の力をつけるために、研修しないといけない内容が多い。 ・ 授業アンケートは、質問の様式が決まっているのか。 →決められた5観点があり、それを入れれば良い。 ・ 聞き方を変えると抵抗感がなくなるのでは。 →5観点が入れてあれば、文言の変更は可能。聞く対象によって変更している。 ・ 記述式にし、項目ごとに観点を書いてもらうという方法がよいのでは。否定的な意見も、肯定的な意見ももらえと思う。 ・ ホームページで医ケアなどの情報提供をすることも可能だと思う。 ・ 「研修をする」という文化をつくる。
--	--